

令和元年度「3つのポリシー」に関するアセスメント報告書
 ～ディプロマポリシー（DP）及びカリキュラムポリシー（CP）の検証～

教学マネジメント委員会

本報告書は、教学マネジメント委員会が策定した「3つのポリシー」に関するアセスメントポリシー（2020年版）に基づいて、教学マネジメント委員会 IR 部門が各種データを収集、分析、検証した結果をまとめたものである。収集した主なデータは、学則、キャンパスガイド、大学案内、入学者募集要項、ホームページ、授業評価、学生調査（2019.12実施）、累積GPA、成績評価、退学率、留年率である。

検証は、要約した所見（データに基づく事実の認識）を記載し、必要に応じてアセスメント（評価、解釈）とアクション（改善案）を追記した。アクションの立案に当たっては、私立大学等経常費補助金の「教育の質に係る客観的指標」及び文部科学省の「改革総合支援事業評価基準」を参考にした。

1. 重点取組課題

アクション（改善案）のうち、優先順が高く、早急に改善の取り組みが必要なものを以下に列挙する。

重点取組課題	アクション	担当部署
3つのポリシーの周知	・各学科は、オリエンテーションだけでなく、初年次教育に相当する授業科目等で大学での勉強方法を説明する際に、「3つのポリシー」の意義（本学教育の設計図であること、学習のロードマップであること、卒業時の到達目標であることなど）を説明する機会をつくる。	各学部・学科
ナンバリングとカリキュラムマップ	・短大の開講科目についてナンバリングを行い、DPと開講科目群の関係を明示するカリキュラムマップを作成し、2021年度版ガイドブックに記載する。	教学マネジメント委員会
キャップ制度	・短大のキャップ制度について、2021年度の導入に向けて検討する。	教務委員会
GPA制度	・成績不振者への学習指導も含めて、GPAによる指導対象者の抽出、指導手順、指導記録、退学勧告に至る基準、手続き等を明文化する。	教務委員会
シラバス	・教学マネジメント委員会は、シラバスチェックの実施手順を作成・周知し、実施結果を把握する。 ・主体的な自己学習を促すシラバスの作成方法に関するFDを実施する。	教学マネジメント委員会
授業改善	・学生の積極性、主体的学習行動を促進し、教室を活性化する教育方法に関するFDを企画・実施する。	教学マネジメント委員会
学習成果	・DP別客観的学習成果の到達度を測定・評価する方法を確立する。 ・国家試験合格率を上昇させるための対策を実施する。	IR部門
卒業生調査	・卒業生調査、卒業生就職先調査を実施する。	就職委員会
施設・設備	・施設・設備の改善に関する学生の要望を聞き、可能なものから改善する。	

2. ディプロマポリシー（DP）とカリキュラムポリシー（CP）の検証

(1) DP、CP の策定・公表・周知

1) DP・CP を策定している。

所見	・すべての学部・学科で策定している。
----	--------------------

2) DP は、各学部・学科の教育目標を具体的能力として適切に表現している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・10/18の教学マネジメント委員会において、重点取組課題として「教育理念→教育目的→教育目標→DP→CPの階層構造の明確化、言語化」を取り上げたことを受けて、各学科で見直し案を作成し、12/5と1/9の大学評議会で見直し案を承認した。 ・DPは、各項目の記載を要約するタイトルを付けた。 ・見直し結果は、2020年度版キャンパスガイドに掲載している。
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての学科で、教育理念からDP・CPまでの階層構造が一定の様式で言語化され、明確になった。 ・教育理念は、大学の使命、方向性を示し、教職員が教育研究活動を行う上での行動規範を適切に表現している。 ・教育目的は、教育理念に基づいて育成する人材像を適切に表現している。 ・教育目標は、育成する人材が持つべき能力の涵養を、大学を主語にして適切に表現している。 ・DPは、卒業時に身につけている能力を、学生を主語にして適切に表現している。 ・CPは、DPを実現するためのカリキュラム編成及び実施の方針を適切に表現している。

3) CP は、DP と整合性がとれている。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・大学では、開講科目のナンバリングを行い、DPと開講科目群の関係と年次進行をカリキュラムマップとして明示し、2020年版キャンパスガイドに記載している。 ・短大では、開講科目のナンバリングが行われていない。2020年版キャンパスガイドに掲載されているカリキュラムマップの科目群は、開講科目一覧の科目区分で行われ、DPとの関係が示されていない。
アセスメント	・短大のカリキュラムマップは、DPと開講科目群の関係を示すものになっていないため、どの科目を学習することがどのDPへつながるのか明示されていない。
アクション	・短大の開講科目についてナンバリングを行い、DPと開講科目群の関係を明示するカリキュラムマップを作成し、2021年度版ガイドブックに記載する。

4) DP・CP を公表している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・DP・CPは、2020年度版キャンパスガイドとホームページに記載し、公表している。 ・2021年版大学案内は、これまで掲載していなかったディプロマポリシー（タイトルのみ）を掲載した。
----	---

5) DP・CP を在学生に周知している。

所見	・学生調査の結果、「とてもそう思う」と「そう思う」と回答したものの割合は、「建学の精神」41.1%、「DP」18.5%、「CP」24.6%であった。
アセスメント	・建学の精神、DP、CPに関する在学生の認知度は低い。
アクション	・各学科は、オリエンテーションだけでなく、初年次教育に相当する授業科目等で大学での勉強方法を説明する際に、「3つのポリシー」の意義（本学教育の設計図であること、学習のロードマップであること、卒業時の到達目標であることなど）を説明する機会をつくる。

(2) 管理・運営体制

1) 教学マネジメント委員会に学外者及び学生が参加している。

所見	<ul style="list-style-type: none">・5/9の大学評議会において、教学マネジメント委員会規程を見直し、学外者及び学生代表の意見を聞く機会を設けることができるように改正した。・10/1、学外者及び学生が参加する教学マネジメント委員会を開催した。
----	--

2) 教学マネジメント委員会を年2回開催している。

所見	<ul style="list-style-type: none">・令和元年度は、4回開催した。<ul style="list-style-type: none">第1回 7/25 アセスメントポリシーを策定第2回 9/17 アセスメント報告書を作成第3回 10/1 学外者及び学生が参加した委員会を開催第4回 10/18 アセスメント報告書に基づき重点取組課題を抽出し、改善策の実施方法を検討
----	---

3) 履修単位上限（キャップ制）を設定している。

所見	<ul style="list-style-type: none">・10/18の教学マネジメント委員会において、重点取組課題として「キャップ制度の見直し」を取り上げたことを受けて、12/5の教務委員会において協議し、以下の基準を2020年度版キャンパスガイドに掲載している。<ul style="list-style-type: none"><u>看護学科 50単位未満</u><u>心理学科（令和2年度開設） 48単位未満</u>・短大では、現行のカリキュラム及び学年配当において保育学科1年生で60単位を超える状況にあり、50単位未満に見直すことは困難であることから上限の設定を見送った。
アセスメント	<ul style="list-style-type: none">・短大においても、単位の実質化、学生がDPを実現するための学習を適切に進める指針の一つとしてキャップ制を導入する必要がある。
アクション	<ul style="list-style-type: none">・短大のキャップ制度について、2021年度の導入に向けて検討する。

4) GPAを履修指導に活用している。

所見	<ul style="list-style-type: none">・10/18の教学マネジメント委員会において、重点取組課題として「GPA制度の活用」を取り上げたことを受けて、12/5の教務委員会において協議し、以下の文章を2020年度版キャンパスガイドに掲載している。<ul style="list-style-type: none"><u>GPAは、成績不振者への学習指導、課程選択（保健師課程など）に必要な成績水準、各種奨学金の申請や就職推薦枠などの選抜に必要な成績水準、キャップ制度の上限緩和の基準、退学勧告などに利用します。</u>・また、GPAによるキャップ制度の上限緩和の基準として、以下の基準を2020年度版キャンパスガイドに掲載している。<ul style="list-style-type: none"><u>GPA値が3.0以上の場合、履修登録できる単位数の上限を10単位緩和します。</u><u>看護学科 60単位未満</u><u>心理学科 58単位未満</u>
アセスメント	<ul style="list-style-type: none">・GPAの活用法についてキャンパスガイドに明示できたが、GPAによる退学勧告の取扱手順が未整備である。
アクション	<ul style="list-style-type: none">・成績不振者への学習指導も含めて、GPAによる指導対象者の抽出、指導手順、指導記録、退学勧告に至る基準、手続き等を明文化する。

(3) 教育の実施

1) 全開講科目のシラバスを作成し、公表している。

所見	<ul style="list-style-type: none">・1/8、シラバス作成要領を作成し、全学に周知した。<ul style="list-style-type: none">作成要領には、実務経験、毎回の授業担当者、ナンバリングなど新たに記載が必要になった項目の記載方法に加えて、作成時の工夫、特に自学自習を促し、授業
----	--

	<p>外学習時間を増やすための工夫例を記載している。</p> <p>また、シラバス作成をテーマにしたFD（12/25、参加人数 29 人）を開催した。</p> <p>・作成したシラバスは、ホームページで公表している。</p>
--	--

2) シラバスの内容をチェックし、改善のための指導を行っている。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・10/18 の教学マネジメント委員会において、教務委員が入力されたシラバスの形式チェックを行い、改善が必要なものは、学部長が当該教員を指導することを申し合わせた。
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスチェックの実施状況と実施結果の把握は徹底しなかった。
アクション	<ul style="list-style-type: none"> ・教学マネジメント委員会は、シラバスチェックの実施手順を作成・周知し、実施結果を把握する。

3) 教員は、シラバスに基づいて授業を実施している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・学生調査の結果、「とてもそう思う」と「そう思う」と回答したものの割合は、「授業はシラバスに沿って行われている」では、90.4%であった。 「シラバスは予習・復習の参考になっている」では、71.7%であった。
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・教員は、シラバスに沿って授業を実施しているが、予習・復習など学生の自己学習を促す手段として十分に活用されているとは言えない。
アクション	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な自己学習を促すシラバスの作成方法に関するFDを実施する。

4) 教員は、適切な授業改善の手立てを実施している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価の結果、評価の平均値について、上位5項目は、1位「教員の熱意を感じましたか」 2位「教材など、全体としてよく準備された授業でしたか」 3位「授業中は熱心に取り組みましたか」 4位「教員は授業の中で理論や考え方、専門用語などをわかりやすく説明していましたか」 5位「この授業は総合的に見て満足でしたか」であった。 下位5項目は、1位「質問や発言などにより、授業に積極的に参加しましたか」 2位「教員はシラバスをみるように促しましたか」 3位「小テストやレポートなどを実施し、コメント等を返しましたか」 4位「授業から刺激を受けて、その分野や関連分野のことをもっと知りたいと思った」 5位「教員は学生同士で共同作業や意見交換、課題解決などを行わせましたか」であった。 ・学生調査の結果、授業の実施状況に関する質問について、「とてもそう思う」、「そう思う」と回答したものの割合で、70%台の項目は、「学生が理解しやすい授業方法を工夫している」、「学生の理解度に合わせた授業を行っている」の2項目であった。 60%台の項目は、「レポートなどの提出物に対してコメントをつけて返却している」、「授業中に質問しやすい雰囲気づくりをしている」、「学生の意見を授業改善に取り入れている」の3項目であった。
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の熱意、授業の準備、わかりやすい授業の実施などが評価され、満足度も高い。 ・一方、授業への積極的参加、小テストやレポートへのフィードバック、学生の意見の反映、学習意欲の喚起などの点で評価が低かった。 ・各教員のスキルとして、わかりやすい授業の提供に加えて、学生の積極性や主体的学習行動を促進するための工夫に取り組む必要がある。
アクション	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の積極性、主体的学習行動を促進する教育方法に関するFDを実施する。

(4) 主観的学習成果（到達度、満足度）

1) 学生は、主体的に学習している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 学生調査の結果、積極的・主体的学習行動に関する質問で、「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した者の割合は、 「授業のグループワークやディスカッションには、積極的に参加する」は75.3%、 「疑問に思ったことは、授業中に質問する」は31.2%、 「疑問に思ったことは、授業後、教員に質問に行く」は48.3%であった。
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> 主体的学習行動として、グループワークやディスカッションなどクラスメートとの話し合いには積極的に参加する割合は高いが、授業中に教員に質問するという行動をとる学生の割合は低い。 授業中の質問が増加することは、質問した学生の理解だけでなく、教室全体の活性化に影響する。理解の深化、学習意欲の向上という観点からも、質問を促す発問の工夫や、質問しやすい教室の雰囲気作りについて取り組む必要がある。
アクション	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に学生が発言する機会をつくる。 質問を促す発問を工夫する。 教室を活性化するための教育方法の工夫に関するFDを実施する。

2) 学生は、十分な学習時間を確保している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 学生調査の結果、 「授業の予習・復習のための時間」は1.8時間/週、 「課題やレポート作成のための時間」は3.8時間/週、 「資格免許取得のための時間」は2.5時間/週、 合計8.1時間/週であった。
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> 1日当たりの学習時間に換算すると1.2時間となり、十分な学習時間を確保しているとはいえない。
アクション	<ul style="list-style-type: none"> シラバスや授業を通して、授業外学習時間を増やすための働きかけを行う。

3) 学生は、自己の成長を実感している。

・学生調査の質問項目とDPの関係

大学のDP区分	短大のDP区分	学生調査の質問項目
人への関心と学問の理解	知識・理解	「幅広い知識技術」 「専門分野の知識技術」
柔軟な思考と表現力	汎用的技能	「物事を論理的に考える習慣」 「物事を様々な視点から考える習慣」 「多様な知識・技術を総合して判断する力」 「自分の意見を分かりやすく伝える力」 「相手の意見を丁寧に聞く態度」
知識の応用力と判断力	総合的な学習経験と創造的思考力	「現状を分析し、問題点や課題を発見する力」 「問題点が生じたときに、適切に対処する力」
未知の領域に挑む意欲	態度・志向性	「経験のないことでも積極的に挑戦する態度」
地域に貢献する積極的 態度		「積極的に人とかかわる態度」 「将来、地域社会の活性化に積極的に貢献する態度」

所見	<ul style="list-style-type: none"> 学生調査の結果、主観的学習成果に関する質問について、「かなり身に付いた」、「ある程度身に付いた」と回答したものの割合で、 80%以上の項目は、「幅広い知識技術」、「専門分野の知識技術」、「相手の意見を丁寧に聞く態度」の3項目であった。 75~79%の項目は、「物事を様々な視点から考える習慣」、「積極的に人とかかわ
----	---

	<p>る態度」、「経験のないことでも積極的に挑戦する態度」の3項目であった。 70～74%の項目は、「物事を論理的に考える習慣」、「多様な知識・技術を総合して判断する力」、「現状を分析し、問題点や課題を発見する力」、「問題点が生じたときに、適切に対処する力」、「将来、地域社会の活性化に積極的に貢献する態度」の5項目であった。 69%以下の項目は、「自分の意見を分かりやすく伝える力」の1項目であった。</p>
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> 学習成果の達成度として、相対的に自己評価が高い項目は知識・技術の獲得であり、一方、自己評価の低い項目は「自分の意見を分かりやすく伝える力」であったことから、DPの達成度としては、「知識・技術をしっかりと身に付け、柔軟な思考や応用力はある程度身に付いたと感じ、新しいことに挑戦し、地域に貢献する意欲もある程度持っているが、それを人に伝える表現力に自信がない」という学生像が窺える。
アクション	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、自分の意見を人に伝える経験をする機会をつくる。

4) 学生は、自己の学習成果に満足している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 学生調査の結果、満足度に関する質問について、「とても満足している」、「ある程度満足している」と回答したものの割合で、80%以上の項目は、「学生課・キャリアサポートセンターの窓口対応」、「保健室・心理相談など相談サービス」の2項目であった。 70～79%の項目は、「教員と学生の一般的な人間関係」、「教務課の窓口対応」、「本学での学生生活全般」の3項目であった。 69%以下の項目は、「本学の施設・設備（校舎、食堂、購買等）」の1項目であった。
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> 学生生活、就職、心身の健康に関する相談窓口に対する満足度が高く、施設・設備に関する満足度は低い。
アクション	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の改善に関する学生の要望を聞き、可能なものから改善する。

(5) 客観的学習成果到達度

1) 学生は、DPで想定している能力を身に付けている。

所見	<ul style="list-style-type: none"> GPAの分布 国家試験合格率は、看護師 88.2%、保健師 100%、社会福祉士 33.3%、精神保健福祉士 100%であった。
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> DP別客観的学習成果の到達度を測定・評価する方法を確立する必要がある。 看護師国家試験合格率は志願者数に直結する学習成果なので、全国平均である95%以上を目標に対策を立てる必要がある。 卒業生調査、卒業生就職先調査が実施できていない。
アクション	<ul style="list-style-type: none"> DP別客観的学習成果の到達度を測定・評価する方法を確立する。 例) DP別の科目群の個人の成績の平均値 学生レベルの到達度の測定・評価 各科目の成績の平均値 授業レベルの到達度の測定・評価 DP別の科目群の全体の成績の平均値 学部・大学レベルの測定・評価 国家試験合格率を上昇させるための対策を実施する。 卒業生調査、卒業生就職先調査を実施する。

2) 教員は、適切な成績評価を実施している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価の分布 大学 秀 21.1%、優 33.2%、良 25.5%、可 17.2%、不可 1.0% 短大 秀 17.1%、優 30.8%、良 19.7%、可 21.4%、不可 1.1%
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> 概ね、適切な成績評価が行われている。

以上

令和元年度「3つのポリシー」に関するアセスメント報告書
 ～アドミッションポリシー（AP）の検証～

教学マネジメント委員会

本報告書は、教学マネジメント委員会が策定した「3つのポリシー」に関するアセスメントポリシー（2020年版）に基づいて、教学マネジメント委員会 IR 部門が各種データを収集、分析、検証した結果をまとめたものである。収集した主なデータは、入学者募集要項（2020年度、2021年度）、ホームページ、選抜方法の採点基準、入学前教育の実績、退学率、留年率である。

検証は、要約した所見（データに基づく事実の認識）を記載し、必要に応じてアセスメント（評価、解釈）とアクション（改善案）を追記した。アクションの立案に当たっては、私立大学等経常費補助金の「教育の質に係る客観的指標」及び文部科学省の「改革総合支援事業評価基準」を参考にした。

1. 重点取組課題

アクション（改善案）のうち、優先順が高く、早急に改善の取り組みが必要なものを以下に列挙する。

重点取組課題	アクション	担当部署
採点基準	・各選抜方法の評価基準をあらかじめ明文化し、評価者間の共通認識を形成して入試を実施する。	各学科
採点結果の分析	・2021年度入試終了後、データの収集・分析を行う。	教学マネジメント委員会 IR 部門
入学後の追跡調査	・入試区分別の GPA の推移を把握する。 ・入試区分別の GPA の推移などの入学後の学業の状況とリンクさせて分析する。	教学マネジメント委員会、IR 部門
卒業後の追跡調査	・卒業生及び主な就職先を対象にした調査を実施する。 ・就職先を対象にした調査項目の例示： 定着度：「本学の卒業生で、3年以内の離職はありましたか」 貢献度：「本学の卒業生は、貴施設の業務に貢献していますか」 積極性：「本学の卒業生は、与えられた業務に対して積極的に取り組んでいますか」 主体性：「本学の卒業生は、業務上の課題発見や問題解決に主体的に取り組んでいますか」 満足度：「本学の卒業生を採用したことに満足していますか」	学生生活委員会 学生課
アセスメントの実施時期	・2021年度入試の評価を2～3月に実施し、改善点を2022年度入試または2023年度入試に反映する。	教学マネジメント委員会、IR 部門

2. アドミッションポリシー（AP）の検証

(1) APの策定・公表

1) APは、DPに記載している能力を身に付ける前提として求める学習成果を明示している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> APは①求める学生像、②入試選抜、③入学前教育の三項目で構成している。 大学及び短大の「求める学生像」に記載されている学習成果とDPの関係はおおむね整合性が取れている。 	
	大学	
	DP（能力）	AP（学習成果）抜き書き
	①人への関心と学問の理解	人間に対する強い関心を身に付けることができる
	②柔軟な思考と表現力	柔軟な考え方を身に付けることができる
	③未知の領域に挑む意欲	フロンティア精神を身に付けることができる
	④知識の応用力	専門的知識・技術・判断力を身に付けることができる
	⑤地域の貢献する積極的態度	地域と世界の重要性の認識することができる
	短大	
	DP（能力）	AP（学習成果）抜き書き
	①知識・理解	教科の基本的な内容を理解している
	②汎用的技能	興味・関心を持ち、自分で調べて解決しようとする
	③態度・志向性	人に対する優しい気持ちを持ち、行動できる
	④総合的な学習経験と創造的思考力	他者との関り、相手を理解し、自己表現できる
<ul style="list-style-type: none"> 各学部・学科のDP（能力）とAP（学習成果）の関係もおおむね整合性が取れている。 		

2) 学習成果は、「学力の3要素」に対応している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 大学及び短大の「求める学生像」に記載されている学習成果は、学力の3要素（①知識・技術、②思考力・判断力・表現力、③主体的に学習に取り組み態度・協働性）に対応している。 	
	①知識・技術	専門的知識・技術・判断力を身に付けることができる 教科の基本的な内容を理解している
	②思考力・判断力・表現力	柔軟な考え方を身に付けることができる 興味・関心を持ち、自分で調べて解決しようとする
	③主体的に学習に取り組み態度・協働性	人間に対する強い関心を身に付けることができる フロンティア精神を身に付けることができる 地域と世界の重要性の認識することができる 人に対する優しい気持ちを持ち、行動できる 他者との関り、相手を理解し、自己表現できる
	<ul style="list-style-type: none"> 各学部・学科が求める学習成果も学力の3要素に対応している。 	

3) APを、公表している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ、入学者募集要項、大学案内、キャンパスガイドに記載し、公表している。
----	--

(2) 選抜方法

1) 多様な背景を持つ学生の受け入れる入試区分を設けている。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度入試では、学校推薦型入試（指定校、公募制）、一般選抜入試、総合型選抜入試、社会人特別入試、帰国子女入試、外国人入試などの入試区分を設け、多様な背景をもつ学生の受け入れに対応している。また、短大では専門実践教育訓練給付制度の教育訓練施設として指定され、社会人学生を受け入れている。
----	---

2) 各入試区分の選抜方法は、「学力の3要素」を多面的に評価する選考方法を採用している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・選抜方法として学力試験、大学入学共通テスト、口頭試問、小論文、プレゼンテーション、面接、調査書などを採用し、入試区分ごとにこれらの方法を組み合わせて「学力の3要素」を総合的に評価している。 ・2021年度入学者募集要項では、各入試区分における選抜方法の組み合わせと「学力の3つの要素」の関係を掲載している。
----	---

(3) 採点基準

1) 採点基準（ルーブリックなど）を作成している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・各選抜方法について採点基準をあらかじめ作成している。（2020年度入試） <table border="1" data-bbox="402 539 1426 757"> <thead> <tr> <th></th> <th>面接</th> <th>プレゼンテーション</th> <th>小論文</th> <th>調査書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>心理学部</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>人間健康学部</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>保育学科</td> <td>×</td> <td>実施なし</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>食物栄養学科</td> <td>×</td> <td>実施なし</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の面接・プレゼンテーションでは、評価表に質問項目、評価の視点、視点別の配点が記載されており評価結果の点数化が行われている。 ・短大の面接ではA～Eの5段階評価を行っている。個人面接記録には質問項目が記載されているが、評価基準は明文化されていない。 ・調査書については、短大では評点平均、特別活動、学校外における任意の社会活動を得点化する評価基準が作成されているが、大学では明文化された評価基準はない。 		面接	プレゼンテーション	小論文	調査書	心理学部	○	○	○	×	人間健康学部	○	○	○	×	保育学科	×	実施なし	○	○	食物栄養学科	×	実施なし	○	○
	面接	プレゼンテーション	小論文	調査書																						
心理学部	○	○	○	×																						
人間健康学部	○	○	○	×																						
保育学科	×	実施なし	○	○																						
食物栄養学科	×	実施なし	○	○																						
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・一部に評価基準を明文化していない選抜方法がある。 																									
アクション	<ul style="list-style-type: none"> ・各選抜方法の評価基準をあらかじめ明文化し、評価者間の共通認識を形成して入試を実施する。 																									

2) 採点基準は、各選考方法に対応する学力の到達度（学習成果）を評価するものになっている。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの評価基準は、高校生活学んだことは何か、高校生活で学んだことを入学後どのように活かすかについて発表し、その内容、発表方法、表現力を評価するものになっている。 ・面接の評価基準は、志望動機、積極性、協調性、責任感、表現力、コミュニケーション能力など観点を設定して質問項目を設定している。
----	---

3) 採点者による極端なバラツキや偏りが無い。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・データの収集・分析ができていない。
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・データの収集・分析は入試の精度の向上に不可欠である。
アクション	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度入試終了後、データの収集・分析を行う。

(4) 入学前教育

1) すべての入試区分で、入学予定者に対して入学前教育を実施している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての学科が、すべての入試区分で入学前教育を実施した。
----	---

2) すべての入試区分で、入学前教育の課題の提出を義務付けている。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・全員に課題の提出を義務付け、提出率は100%であった。
----	--

(5) 入学後の追跡調査

1) 入試区別に、留年・退学の動向を把握している。

所見	<ul style="list-style-type: none">・毎年度把握している。・大学（2014～2016年度入学生の卒業時の動向） 全体では、退学率 6.2%、留年率 3.1%であった。 入試区別では、B日程で退学率（14.3%）、留年率（9.5%）ともに高かった。・短大の 2016～2018 年度入学生 全体では、退学率 8.3%、留年率 2.2%であった。 入試区別では、A0入試で退学率（23.8%）、留年率（14.3%）ともに高かった。
アセスメント	・留年・退学の動向を把握しているが、その要因の分析ができていない。
アクション	・入試区別の GPA の推移などの入学後の学業の状況とリンクさせて分析する。

2) 入試区別に、学年進行に伴う GPA の推移を把握している。

所見	・把握できていない。
アクション	・入試区別の GPA の推移を把握する

(6) 卒業後の追跡調査

所見	・実施できていない。
アクション	<ul style="list-style-type: none">・卒業生及び主な就職先を対象にした調査を、毎年度実施する。・就職先を対象にした調査項目の例示： 定着度：「本学の卒業生で、3年以内の離職はありましたか」 貢献度：「本学の卒業生は、貴施設の業務に貢献していますか」 積極性：「本学の卒業生は、与えられた業務に対して積極的に取り組んでいますか」 主体性：「本学の卒業生は、業務上の課題発見や問題解決に主体的に取り組んでいますか」 満足度：「本学の卒業生を採用したことに満足していますか」

以上

資料編

I. 学生調査

1. 基本属性

回答者数 513人（福祉審学科104人、看護学科253人、保育学科75人、食物栄養学科81人）

学年の割合 1年生36.5%、2年生31.3%、3年生15.8%、4年生16.4%

性別 男性19.0%、女性81.0%

2. 授業に関する質問

(1) 3つのポリシーの認知度に関する質問（「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた割合（%））

問4 建学の精神を知っている。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理学科	41.4	34.8	38.5	46.2	40.4
看護学科	43.6	51.5	50.9	55.4	49.8
保育学科	16.7	38.5			28.0
食物栄養学科	26.7	27.8			27.2
					41.1

問5 ディプロマポリシーを知っている。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理学科	24.1	13.0	11.5	11.5	15.4
看護学科	20.5	25.8	24.5	10.7	20.6
保育学科	2.8	33.3			18.7
食物栄養学科	13.3	19.4			16.0
					18.5

問6 カリキュラムポリシーを知っている。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理学科	20.7	17.4	26.9	19.2	21.2
看護学科	30.8	33.3	34.0	12.5	28.1
保育学科	2.8	46.2			25.3
食物栄養学科	17.8	16.7			17.3
					24.6

問7 アドミッションポリシーを知っている。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理学科	41.4	26.1	19.2	34.6	30.8
看護学科	51.3	34.8	41.5	12.5	36.4
保育学科	8.3	33.3			21.3
食物栄養学科	20.0	19.4			19.8
					30.4

(2) 授業の実施状況に関する質問（「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた割合（%））

問8 授業はシラバスに沿って行われている。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理学科	82.8	91.3	96.2	96.2	91.3
看護学科	91.0	81.8	98.1	91.1	90.1
保育学科	88.6	89.7			89.2
食物栄養学科	88.9	94.2			91.4
					90.4

問9 シラバスは予習・復習の参考になっている。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理学科	58.6	52.2	80.8	46.2	59.6
看護学科	80.8	78.8	90.6	82.1	82.6
保育学科	55.6	64.1			60.0
食物栄養学科	68.9	58.3			64.2
					71.7

問10 学生が理解しやすいように授業方法を工夫している。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理学科	75.9	73.9	84.6	84.6	79.8
看護学科	70.5	74.2	92.5	87.5	79.8
保育学科	75.0	89.5			82.4
食物栄養学科	77.8	77.1			77.5
					79.8

問11 学生の理解度に合わせた授業を行っている。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理学科	55.2	73.9	92.3	84.6	76.0
看護学科	60.3	65.2	90.6	83.9	73.1
保育学科	63.9	84.6			74.7
食物栄養学科	77.8	83.3			80.2
					75.0

問 12 レポートなどの提出物に対してコメントをつけて返却している。

	1年	2年	3年	4年	全体	62.3
福祉心理学科	48.3	56.5	61.5	38.5	51.0	
看護学科	48.1	47.0	81.1	71.4	59.9	
保育学科	66.7	84.6			76.0	
食物栄養学科	73.3	69.4			71.6	

問 13 授業中に質問しやすい雰囲気づくりをしている。

	1年	2年	3年	4年	全体	65.5
福祉心理学科	51.7	69.6	61.5	57.7	59.6	
看護学科	48.7	50.0	71.7	83.9	61.7	
保育学科	69.4	84.6			77.3	
食物栄養学科	64.4	86.1			74.1	

問 14 学生の意見を授業改善に取り入れている。

	1年	2年	3年	4年	全体	65.0
福祉心理学科	65.5	45.5	80.8	46.2	60.2	
看護学科	51.3	51.5	73.6	82.1	62.8	
保育学科	63.9	82.1			73.3	
食物栄養学科	64.4	77.8			70.4	

3. 主体的学習行動に関する質問

(1) 授業以外の学習時間（1週間）に関する質問

問 15 授業の予習・復習のための時間

	1年	2年	3年	4年	全体	1.8
福祉心理学科	1.6	1.7	2.3	1.7	1.8	
看護学科	2.0	2.6	2.3	1.6	2.2	
保育学科	0.9	1.2			1.1	
食物栄養学科	2.1	1.1			1.6	

問 16 課題やレポートの作成のための時間

	1年	2年	3年	4年	全体	3.8
福祉心理学科	2.8	3.7	4.0	4.0	3.6	
看護学科	4.5	5.8	5.2	2.5	4.6	
保育学科	2.5	2.1			2.3	
食物栄養学科	3.8	2.2			3.1	

問 17 資格・免許取得のための学習時間

	1年	2年	3年	4年	全体	2.5
福祉心理学科	1.2	2.2	3.0	2.7	2.2	
看護学科	1.4	2.5	2.2	5.9	2.9	
保育学科	1.8	1.7			1.8	
食物栄養学科	1.9	3.0			2.4	

(2) 積極性・主体的学習行動に関する質問（「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた割合（%））

問 18 授業のグループワークやディスカッションには、積極的に参加する。

	1年	2年	3年	4年	全体	75.3
福祉心理学科	65.5	69.6	73.1	57.7	66.3	
看護学科	79.5	78.5	81.1	75.0	78.6	
保育学科	80.6	73.7			77.0	
食物栄養学科	75.0	75.0			75.0	

問 19 疑問に思ったことは、授業中に質問する。

	1年	2年	3年	4年	全体	31.2
福祉心理学科	41.4	30.4	23.1	26.9	30.8	
看護学科	19.2	33.8	32.1	53.6	33.3	
保育学科	30.6	31.6			31.1	
食物栄養学科	20.5	30.6			25.0	

問 20 疑問に思ったことは、授業後、教員に質問に行く。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理学科	51.7	56.5	34.6	42.3	46.2
看護学科	43.6	46.2	43.4	66.1	49.2
保育学科	50.0	42.1			45.9
食物栄養学科	48.8	52.8			50.6
					48.3

4. 主観的学習成果に関する質問（「かなり身に付いた」と「ある程度身に付いた」を合わせた割合（%））

問 21 幅広い知識・技術

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理学科	62.1	65.2	73.1	84.6	71.2
看護学科	83.3	80.0	92.5	85.7	84.9
保育学科	75.0	79.5			77.3
食物栄養学科	79.5	91.7			85.0
					81.0

問 23 物事を論理的に考える習慣

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理学科	62.1	85.6	76.9	65.4	71.2
看護学科	60.3	68.2	79.2	91.1	73.1
保育学科	50.0	66.7			58.7
食物栄養学科	72.7	69.4			71.3
					70.3

問 25 多様な知識・技術を総合して判断する力

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理学科	58.6	65.2	76.9	65.4	66.3
看護学科	59.0	75.8	84.9	87.5	75.1
保育学科	72.2	79.5			76.0
食物栄養学科	84.1	80.6			82.5
					74.6

問 27 問題が生じたときに、適切に対処する力

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理学科	58.6	65.2	73.1	73.1	67.3
看護学科	67.9	69.7	75.5	82.1	73.1
保育学科	66.7	79.5			73.3
食物栄養学科	79.5	80.6			80.0
					73.0

問 22 専門分野の知識・技術

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理学科	69.0	78.3	88.5	88.5	80.8
看護学科	84.6	78.8	94.3	89.3	86.2
保育学科	80.6	84.6			82.7
食物栄養学科	84.1	88.9			86.3
					84.6

問 24 物事を様々な視点から考える習慣

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理学科	79.3	87.0	80.8	84.6	82.7
看護学科	69.2	77.3	83.0	80.4	76.7
保育学科	69.4	79.5			74.7
食物栄養学科	77.3	77.8			77.5
					77.7

問 26 現状を分析し、問題点や課題を発見する力

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理学科	69.0	78.3	80.8	61.5	72.1
看護学科	61.5	74.2	84.9	85.7	75.1
保育学科	69.4	76.9			73.3
食物栄養学科	72.7	77.8			75.0
					74.2

問 28 自分の意見をわかりやすく伝える力

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理学科	58.6	56.5	80.8	65.4	65.4
看護学科	64.1	69.7	66.0	76.8	68.8
保育学科	55.6	76.3			66.2
食物栄養学科	72.7	61.1			67.5
					67.5

問 29 相手の意見を丁寧に聞く態度

	1年	2年	3年	4年	全体	89.0
福祉心理学科	82.8	87.0	92.3	88.5	87.5	
看護学科	96.2	84.8	90.6	89.3	90.5	
保育学科	80.6	86.8			83.8	
食物栄養学科	93.2	88.9			91.3	

問 31 経験のないことでも積極的に挑戦する態度

	1年	2年	3年	4年	全体	76.6
福祉心理学科	65.5	69.6	84.6	57.7	69.2	
看護学科	80.8	77.3	73.6	82.1	78.7	
保育学科	75.0	79.5			77.3	
食物栄養学科	81.8	75.0			78.8	

問 30 積極的に人とかかわる態度

	1年	2年	3年	4年	全体	79.8
福祉心理学科	65.5	82.6	69.2	73.1	72.1	
看護学科	84.6	78.8	88.7	85.7	84.2	
保育学科	69.4	76.3			73.0	
食物栄養学科	84.1	80.6			82.5	

問 32 将来、地域社会の活性化に積極的に貢献する態度

	1年	2年	3年	4年	全体	71.3
福祉心理学科	65.5	52.2	50.0	53.8	55.8	
看護学科	69.2	77.3	81.1	80.4	76.3	
保育学科	69.4	69.2			69.3	
食物栄養学科	79.5	75.0			77.5	

5. 満足度に関する質問（「とても満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合（%））

問 33 教員と学生の一般的な人間関係

	1年	2年	3年	4年	全体	78.5
福祉心理学科	72.4	87.0	92.3	92.3	85.6	
看護学科	52.6	60.6	84.9	92.9	70.4	
保育学科	88.9	84.6			86.7	
食物栄養学科	84.1	91.7			87.5	

問 35 学生課・キャリアサポートセンターの窓口対応

	1年	2年	3年	4年	全体	86.1
福祉心理学科	82.8	91.3	100.0	88.5	90.4	
看護学科	90.9	78.8	81.1	89.3	85.3	
保育学科	80.6	87.2			84.0	
食物栄養学科	81.8	88.9			85.0	

問 37 大学の施設・設備（校舎、食堂、購買等）

	1年	2年	3年	4年	全体	59.7
福祉心理学科	58.6	43.5	61.5	61.5	56.7	
看護学科	45.5	59.1	75.5	62.5	59.1	
保育学科	44.4	64.1			54.7	
食物栄養学科	63.6	77.8			70.0	

問 34 教務課の窓口対応

	1年	2年	3年	4年	全体	77.5
福祉心理学科	79.3	82.6	92.3	73.1	81.7	
看護学科	83.1	75.8	81.1	76.8	79.4	
保育学科	62.9	64.1			63.5	
食物栄養学科	77.3	80.6			78.8	

問 36 保健室・心理相談など相談サービス

	1年	2年	3年	4年	全体	88.4
福祉心理学科	89.7	87.0	84.6	92.0	88.3	
看護学科	91.0	87.9	90.6	89.3	89.7	
保育学科	82.9	79.5			81.1	
食物栄養学科	88.6	94.4			91.3	

問 38 本学での学生生活全般

	1年	2年	3年	4年	全体	71.3
福祉心理学科	58.6	65.2	84.6	65.4	68.3	
看護学科	61.0	68.2	79.2	75.0	69.8	
保育学科	63.9	81.6			73.0	
食物栄養学科	76.7	80.6			78.5	

II. 授業評価

問	質問	大学				短大			
		平均値	パーセンタイル			平均値	パーセンタイル		
			25%	50%	75%		25%	50%	75%
3	シラバスは授業の目標・内容・評価方法を分かりやすく示していましたか。	3.32	3.17	3.27	3.44	3.27	3.20	3.26	3.34
4	授業内容はシラバスに沿ったものでしたか。	3.32	3.17	3.30	3.46	3.26	3.20	3.26	3.34
5	教員はシラバスをみるように促しましたか。	3.21	3.07	3.20	3.37	3.17	3.10	3.20	3.29
6	教材など、全体としてよく準備された授業でしたか。	3.42	3.23	3.40	3.59	3.35	3.26	3.35	3.43
7	この授業の全体としての難易度は適切でしたか。	3.30	3.13	3.27	3.48	3.28	3.19	3.30	3.40
8	課題（レポート、予習、復習）の量は適切でしたか。	3.34	3.19	3.32	3.50	3.31	3.22	3.31	3.40
9	教員の話し方や声は聞き取りやすかったですか。	3.37	3.18	3.37	3.60	3.35	3.23	3.35	3.46
10	教員は授業の中で理論や考え方、専門用語などをわかりやすく説明していましたか。	3.39	3.20	3.37	3.57	3.33	3.24	3.33	3.43
11	教員の授業の進め方は学生の反応や理解度・達成度を配慮したものでしたか。	3.31	3.14	3.30	3.48	3.28	3.18	3.29	3.39
12	黒板や映像資料は授業内容の理解に役立ちましたか。	3.38	3.21	3.36	3.53	3.30	3.20	3.30	3.42
13	教員は学生の質問や疑問に適切に対応しましたか。	3.38	3.20	3.35	3.53	3.32	3.21	3.33	3.41
14	教員の熱意を感じましたか。	3.41	3.22	3.38	3.58	3.37	3.26	3.35	3.47
15	小テストやレポートなどを実施し、コメント等を返しましたか。	3.25	3.05	3.25	3.45	3.25	3.16	3.27	3.38
16	教員は学生同士で共同作業や意見交換、課題解決などを行わせましたか。	3.26	3.04	3.27	3.50	3.30	3.20	3.30	3.40
17	教員は学生が意欲的に参加できるような雰囲気づくりに努めましたか。	3.33	3.15	3.33	3.50	3.31	3.20	3.30	3.41
19	授業中は熱心に取り組みましたか。	3.38	3.23	3.37	3.53	3.38	3.28	3.38	3.50
20	質問や発言などにより、授業に積極的に参加しましたか。	3.05	2.87	3.07	3.22	3.26	3.13	3.27	3.38
23	授業から刺激を受けて、その分野や関連分野のことをもっと知りたいと思った。	3.29	3.10	3.28	3.50	3.24	3.13	3.22	3.34
24	この授業は総合的に見て満足でしたか	3.36	3.18	3.34	3.57	3.36	3.25	3.37	3.48

大学短大全体の平均値の順位

問 14	問 6	問 19	問 10	問 24	問 9	問 13	問 12	問 8	問 17
3.39	3.39	3.38	3.36	3.36	3.36	3.36	3.35	3.32	3.32
問 4	問 3	問 11	問 7	問 16	問 23	問 15	問 5	問 20	
3.30	3.30	3.30	3.29	3.28	3.27	3.25	3.19	3.13	

Ⅲ. 退学率と留年率

大学（平成 26～28 年度の 3 年間の入学生の卒業時の集計）

	香川特推	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A 日程	B 日程	センター	A0	A0 社会人	計
入学者数	0	108	27	13	87	21	77	18	2	353
退学者数	0	6	1	0	7	3	4	0	1	22
退学率(%)	0.0	5.36	3.7	0.0	8.0	14.3	5.2	0.0	50.0	6.2
留年者数	0	5	1	0	2	2	1	0	0	11
留年率(%)	0.0	4.6	3.7	0.0	2.3	9.5	1.3	0.0	0.0	3.1

短大（平成 28～30 年度の 3 年間の入学生の卒業時の集計）

	香川特推	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A 日程	B 日程	センター	A0	A0 社会人	計
入学者数	91	100	28	3	10	4	15	21	5	277
退学者数	7	5	5	0	0	0	0	5	1	23
退学率(%)	7.7	5.0	17.9	0.0	0.0	0.0	0.0	23.8	20.0	8.3
留年者数	0	1	1	1	0	0	0	3	0	6
留年率(%)	0.0	1.0	3.6	33.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	2.2

Ⅳ. GPA の分布

	1 年 平均値	2 年 平均値	3 年 平均値	4 年 平均値	全体 平均値	パーセンタイル		
						25%	50%	75%
福祉心理学科	2.95	3.01	2.60	2.79	2.82	2.33	2.98	3.30
看護学科	2.56	2.40	2.40	2.41	2.45	2.09	2.48	2.79
保育学科	2.21	2.39			2.29	1.92	2.28	2.65
食物栄養学科	2.46	2.54			2.49	2.09	2.37	3.04

Ⅴ. 成績評価の分布

	大学		短期大学部	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
秀	5568	23.1	1342	17.1
優	7987	33.2	2415	30.8
良	6137	25.5	2334	29.7
可	4153	17.2	1679	21.4
不可	244	1.0	83	1.1
計	24089	100.0	7853	100.0

VI. 国家試験合格率

	看護師	保健師	社会福祉士	精神保健福祉士
受験者数	68	6	3	1
合格者数	60	6	1	1
合格率 (%)	88.2	100	33.3	100

資料編

I. アドミッションポリシー (AP)

<p>大学</p> <p>(1) 求める学生像</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間に対する強い関心を、理論・実践を通じて身に付けることができる人 柔軟な考え方を、人の意見をよく聞く態度を通じて、身に付けることができる人 フロンティア精神を、新しいことに挑戦し、課題を発見していくことで身に付けることができる人 地域と世界の重要性を、ローカルな視点とグローバルな思考で地域に主体的に参加していくことで認識することができる人 専門の現場で展開する幅広い教養及び専門的知識・技術・判断力を、本学の学士課程を通じて身に付けることができる人 <p>(2) 入試選抜について</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学では、求める学生像受け入れのため、教科の試験や高等学校からの推薦、総合型選抜および大学入学共通テストを利用した試験等、多様な入試選抜を実施します。 <p>(3) 入学前教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学教育を受けるのに必要な基礎的能力の向上のため、本学は入学予定者に課題を与え、その提出を求めます。もしくは、入学までに学習しておくべき項目を提示します。 	<p>短期大学部</p> <p>(1) 求める学生像</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等学校までに履修する教科の基本的な内容を理解している人。 日常生活上の問題に興味・関心を持ち、自分で調べて解決しようとする人。 人に対して優しい気持ちを持ち、その人のために行動できる人。 他者と関わりながら、会話を通じて相手を理解し、自分を表現しようとする人。 <p>(2) 入試選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学で求める学生像を、学校推薦型選抜入試、総合型選抜入試および社会人入試においては面接と書類審査、一般選抜入試では、学力試験と面接、書類審査において確認します。 <p>(3) 入学前教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学教育を受けるのに必要な基礎的能力の向上のため、入学予定者に課題を与え、その提出を求めます。または入学までに学習しておくべき内容を提示します。 		
<p>心理学部</p> <p>(1) 求める学生像</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理学を通して人間に対する強い関心を持ち、実践活動を通じて学術を極めることができる人 コミュニケーション能力、スキルを使い自分の考えを持つと同時に他者の意見も柔軟に取り入れることができる人 常に新しいことに挑戦するフロンティア精神をもって社会で活躍しようとしている人 グローバルな思考で地域に主体的に参加するために必要な素養を心理学を通して身につけたい人 	<p>人間健康学部</p> <p>(1) 求める学生像</p> <ul style="list-style-type: none"> 人々とのかかわりに関心を持ち、その人らしさを感じることができる人 自分の考えを持つと同時に他者の意見も柔軟に取り入れる人 新しいことにチャレンジし、自らの課題を見つけることができる人 地域と世界の重要性を、ローカルな視点とグローバルな思考で地域に主体的に参加していくことで認識することができる人 人々の健康に関心がある人 <p>(2) 入試選抜について</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間健康学部看護学科では、求める学 	<p>保育学科</p> <p>(1) 求める学生像</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等学校までに履修する教科の内容を広く理解している人。 日常のさまざまな出来事に興味・関心を持ち、研究心旺盛な人。 子どもの保育や幼児教育について興味・関心を深く持ち、将来保育士や幼稚園教諭など子どもと関わる分野で活躍したいという熱意のある人。 他者と積極的にコミュニケーションをとり、協調してものごとに取り組む態度が見られる人。 <p>(2) 入試選抜</p>	<p>食物栄養学科</p> <p>(1) 求める学生像</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門教育科目を学ぶ基礎学力を身につけている人。 食や健康に興味があり、栄養士免許取得を目指している人。 自分の食生活を大切にし、将来に向けた健康づくりが実践できる人。 栄養士として、地域の人々の健康に貢献したいと思っている人。 <p>(2) 入試選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学科で求める学生像を、学校推薦型選抜入試、総合型選抜入試および社会人入試においては面接と書類審査、一般選抜入試では、学力試験と面

<ul style="list-style-type: none"> 心理学を通して人々に笑顔が届いたと考えている人 (2) 入試選抜について 心理学部心理学科では、求める学生像受け入れのため、教科の試験や高等学校からの推薦、総合型選抜および大学入学共通テストを利用した試験等、多様な入試選抜を実施する。 (3) 入学前教育について 大学教育を受けるのに必要な基礎的能力の向上のため、心理学部心理学科は入学予定者に課題を与え、その提出を求める。もしくは、入学までに学習しておくべき項目を提示する。 	<p>生像受け入れのため、教科の試験や高等学校からの推薦、総合型選抜および大学入学共通テストを利用した試験等、多様な入試選抜を実施します。</p> <p>(3) 入学前教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学教育を受けるのに必要な基礎的能力の向上のため、人間健康学部看護学科は入学予定者に課題を与え、その提出を求めます。もしくは、入学までに学習しておくべき項目を提示します。 	<ul style="list-style-type: none"> 本学科で求める学生像を、学校推薦型選抜入試、総合型選抜入試および社会人入試においては面接と書類審査、一般選抜入試では、学力試験と面接、書類審査において確認します。 (3) 入学前教育 大学教育を受けるのに必要な基礎的能力の向上のため、入学予定者に課題を与え、その提出を求めます。または入学までに学習しておくべき内容を提示します。 	<p>接、書類審査において確認します。</p> <p>(3) 入学前教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学教育を受けるのに必要な基礎的能力の向上のため、入学予定者に課題を与え、その提出を求めます。または入学までに学習しておくべき内容を提示します。
---	--	--	---

II. 選抜方法

1. 選抜方法と学力の3要素

(1) 大学（2021年度入学者募集要項）

	入試区分	選考方法	学部が求める知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度・協働性など	
学校推薦型選抜	指定校	プレゼンテーション		○		
		面接			○	
		調査書	○			
	公募制Ⅰ期 公募制Ⅱ期	小論文				
		面接		○		○
一般選抜	A日程 B日程	学力試験	○			
		面接		○	○	
		調査書	○			
		小論文	○			
大学入学共通テスト利用選抜	前期、中期、 後期	大学入学共通テスト	○			
		調査書	○	○	○	
総合型選抜		プレゼンテーション		○		
		面接				
		調査書	○			

(2) 短大（2021年度入学者募集要項）

	入試区分	選考方法	学部が求める知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度・協働性など
学校推薦型選抜	指定校	口頭試問	○		
		面接		○	
		調査書	○		○
	公募制	小論文	○	○	
		面接		○	
		調査書	○		○
一般選抜	A 日程 B 日程	学力試験	○		
		面接		○	
	調査書	○		○	
総合型選抜		プレゼンテーション	○	○	
		面接			
		調査書	○		○

Ⅲ. 入学後の追跡調査

大学（平成 26～28 年度入学生の卒業時の集計）

	香川特推	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A 日程	B 日程	センター	A0	A0 社会人	計
入学者数	0	108	27	13	87	21	77	18	2	353
退学者数	0	6	1	0	7	3	4	0	1	22
退学率(%)	0.0	5.36	3.7	0.0	8.0	14.3	5.2	0.0	50.0	6.2
留年者数	0	5	1	0	2	2	1	0	0	11
留年率(%)	0.0	4.6	3.7	0.0	2.3	9.5	1.3	0.0	0.0	3.1

短大（平成 28～30 年度の 3 年間の入学生の卒業時の集計）

	香川特推	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A 日程	B 日程	C 日程	A0	A0 社会人	計
入学者数	91	100	28	3	10	4	15	21	5	277
退学者数	7	5	5	0	0	0	0	5	1	23
退学率(%)	7.7	5.0	17.9	0.0	0.0	0.0	0.0	23.8	20.0	8.3
留年者数	0	1	1	1	0	0	0	3	0	6
留年率(%)	0.0	1.0	3.6	33.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	2.2

Ⅳ. 就職率（2019 年度卒業生、2019 年度法人事業報告書より抜粋）

	人間社会学部	人間健康学部	保育学科	食物栄養学科
就職率	94.7%	100%	100%	100%